

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。
令和がはじまりますね。みなさま10連休いかがお過ごしでしょうか。
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動しています。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

1 藤原辰史著『給食の歴史』

■ 1 ■ 藤原辰史著『給食の歴史』

昨年11月、『給食の歴史』という本が出版されました（藤原辰史／岩波新書）。
給食の歴史を知る上でとても参考になりましたので、ご紹介します。

藤原さんは、給食史を貧困、災害、運動、教育、世界という5つの視角で捉えます。
特に子どもの貧困対策としての給食の重要性は、昔も今も少しも変わらない
と強調します。

「世界的にみても、政治や経済の危機によって真っ先に栄養不足・栄養失調の危
険にさらされる子どもへの援助として、給食の価値が認められていること、貧困
家庭の子どもにできるだけスティグマを与えぬように工夫してきたこと、新自由
主義的政策が給食への国庫支出を渋り、民間委託が進むが、結局、それ自身がも
たらす貧困によって給食の意義が増し、給食への国庫支出と質の改善がなされる
ということ、これらは、世界給食史の基本路線である。」（28ページ）

その上で、より良い給食を求めて、多くの人々が運動してきた歴史にも触れます。
戦後、文部省管理局学校給食課の官僚としてGHQとのやりとりの最前線に立っ
た中村鎮は、著書『学校給食読本』（1950年）の中で現在にも通じる斬新なアイ
ディアを提案しているそうです。

「たとえば、『政府なり地方公共団体なりの財政で、いっさいの給食費がまかなわ

れる』無償給食、『食事という学童の生活経験にもとづく生きいきとした学習指導』、『学校当局も、保護者も、地域社会も、すべて一丸となって、この事業の完成のために努力をかさねて協力』する『コミュニティスクールランチ』、『食卓に花を、食堂に絵を自分らでえがき、自分でえらぶ。食事時に音楽を演奏する。給食従事者の清潔でうつくしい制服』を着用するというような、どれも給食の未完の、あるいは進行中の試みであるといえよう。」(125 ページ)

そして食中毒・異物混入との闘い、センター反対運動、先割れスプーン論争、給食費値上げ反対運動、弁当持参運動、食物アレルギー問題、脱脂粉乳から生乳へ、パンから米飯給食へ、ソフト麺、添加物、食器改善、調理員の待遇改善問題など、より良い給食を求める運動の結果いまの給食があることを明らかにしつつ、以下のように結んでいます。

「ランチルームの創設、ファミリー給食、各教科との接合、調理場を校舎の真ん中に設置すること、朝の給食、長期休暇時の給食、花を飾ること、『各種学校』での給食の公的援助の実施、学校農園の設置、みずからつくる給食、給食時間の増加、地産地消の食材、給食 130 年の歴史のなかでその担い手たちの頭に浮かんでは消えていった未見の演目は、まだ大小無数に存在し、その上演の日を待っている。給食は、役割を終えた旧時代の遺物ではない。世界史を歩み始めたばかりの新時代のプロジェクトなのである。」(262 ページ)

2005 年に食育基本法が交付され、その後の食育推進基本計画によって栄養教諭制度が整い、さらにこれに応じて 2008 年に学校給食法が改正され、食育の取り組みが制度化されました。それから 10 年。給食を教育の一環ではなく、教育の中心に置くことで、より「ほんとうの食育」に近づいていけるのではないのでしょうか。私たちも運動の担い手としていまの時代にできることに取り組んでいきます。

● 来月もお楽しみに♪ ●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)

E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com

facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (奈良市今市町 40-1)
